

第 18 回 日本化学連合シンポジウム
「社会実装を実現する化学人材創出における新たな視点」



事前参加登録は
この QR コードより

開催日時：2025 年 3 月 4 日（火）14：00～17：45（予定）
（化学コミュニケーション賞 2024 授賞式終了後）

開催方式：ZOOM によるオンライン開催

主催：日本化学連合

共催：化学工学会、クロマトグラフィー科学会、高分子学会、触媒学会、石油学会、日本エネルギー学会、日本化学会、日本ゼオライト学会、日本地球化学会、日本膜学会、日本薬学会

協賛：化学工業日報社、化学情報協会、日本セラミックス協会

後援：新化学技術推進協会

協力：Chem-Station

参加費：無料（要事前登録）

申込フォーム：<https://www.jucst.org/form/view.php?id=20593>

申込締切：2025 年 3 月 1 日（土）

URL：<https://www.jucst.org/entry.php>

開催趣旨

日本化学連合ではシンポジウムを毎年 2 回開催しています。そのうち 2025 年 3 月 4 日開催のシンポジウムでは、科学（化学）の未来を支える研究者養成をテーマとして、そこに付随する諸課題と現在進められている強化策の理解を通じて、我が国の科学力や産業力を向上させるために本連合が取り組むべき活動の方向性を議論することを目的とします。

プログラム

総合司会（ファシリテータ）日本化学連合副会長 林 良雄（東京薬大生命）

14：00～14：10 日本化学連合会長挨拶 関 隆広（名古屋大学未来社会創造機構）

14：10～15：00

「博士人材の活躍促進に向けて」

高橋佑也（文部科学省 科学技術・学術政策局
人材政策課 人材政策推進室 課長補佐）

博士人材は、社会にイノベーションをもたらす重要な存在であるため、昨年、「博士人材活躍プラン～博士をとろう～」を取りまとめ、経済産業省や産業界とも協力しながら、博士人材の多様なフィールドでの活躍を推進している。本講演では、上記「博士人材活躍プラン」のほか、文部科学省で現在取り組んでいる政策について取り上げる。



15：00～15：45

「製薬会社における博士人材の活躍～元研究職の採用責任者より～」

野口哲司（第一三共(株)人事部人材採用グループ長）

製薬会社は「知識集約型産業」である。最先端の科学技術を駆使して画期的新薬を創製することが会社の使命である。使命の実現には高度専門人材が必須であり、その観点で博士学生には非常に期待している。本講演では創薬化学者および新卒博士採用担当の経験を有する採用責任者として、業界・職種・博士への期待等を説明する。

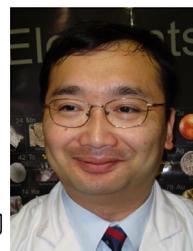


15:45~15:55 休憩

15:55~16:40

「博物学的魅力の周期表元素、驚きと発見で好きになる理科実験、百聞は一見に如かずの分子軌道—過去から未来への時間軸の中、物質の世界で生きる私たちにとっての化学—」

坂根弦太（岡山理科大学基盤教育センター長）
図鑑で見た恐竜の名前を夢中で覚えるように、周期表元素の個性と凄さを語って夢中にさせる。聞く・読むより自分で実験して、見て触って驚き気付き、物質の基礎概念を得心させる。原子の大きさ、イオン、化学結合、化学反応、物質の色や磁性など、言わば化学の主演である「電子」の姿を、まずは無償で使える DV- $X\alpha$ 法と三次元可視化システム VESTA でどんどん見ていき、原子・分子中の電子のイメージを構築させる。



16:40~16:55

「博士課程で得られるもの≠博士号」

鈴木星冴（三菱ケミカル（株）スペシャリティフィルムズ
テクノロジーセンター主席研究員）

博士号を取得して良かったことはありますか？。これはよく就活説明会で学生から受ける質問である。残念ながら、博士号を持っていることで大きな得をしたことは未だない。一方で「博士課程に進んで良かったこと」はたくさんある。本講演では私が博士課程に進んだきっかけ、博士課程で得られた経験、その経験が仕事で役立ったことについて発表する。



16:55~17:10

「博士として、企業研究者として：異分野研究への挑戦」

吉崎友哉（東レ（株）地球環境研究所研究員）

専門の高分子合成で博士の学位を取得してから、9年間、分離膜という異分野に身を置き、学生時代同様、がむしゃらに研究を続けている。本講演では、私が博士課程進学を決めた時の葛藤にも触れつつ、企業研究の醍醐味について、紹介、議論させていただきたい。



17:10~17:25

「金融の未来を創る～技術系博士人材の新たな価値～」

羽田貴英（三井住友信託銀行（株）サステナビリティ推進部
Technology Based Finance チーム主任調査役）

私は信託銀行の TBF チームに所属し、新規事業創出や投融資案件の技術評価業務等を担当しています。本チームは元研究・開発者を中心に編成された専門家集団で、私を含む多くの技術系博士人材が在籍しています。本講演では、技術系博士人材が金融機関でどのように専門性を発揮し、仕事をしているかを、具体的事例を交え紹介します。



17:25~17:40 総合討論

17:40~17:45 閉会の辞(林 良雄 東京薬大生命)

問い合わせ先：日本化学連合 事務局 E-mail:secretariat@jucst.org